

昭和のアルバム

悲しみこらえた1枚

今年の夏も厳しい暑さが続いています。読者の皆さま、ご自愛ください。
「昭和のアルバム」のコーナーでは毎年夏、太平洋戦争にまつわる写真を掲載しています。

朝来市の岡村伊都代さん(91)から届いたのは、長男だったお兄さんを囲む家族の写真です。お兄さんは旧制豊岡中学から陸軍予科士官学校、航空士官学校へと進み、教官になったそうです。「16歳で但馬を出てから一度も帰ることはなく、ようやく台湾赴任を前に一泊だけ里帰りしました」。そのときに撮影した写真です。

「翌年、兄はフィリピンで戦死しました。まだ21歳でした。この写真が、兄のことを知っている方の目に触れることがあればと思い、投稿しました。兄の名は神吉吉弘といいます」

岡村さんの実家に、白木の箱に入った戦死の公報が届いたのは、終戦から2日後の8月17日のことだったそうです。

◆次回は9月11日に掲載します。



■昭和18年6月ごろ、加古郡稲美町

提供 加古川市、和田昭代さん(76)＝当時3カ月ごろ、前列祖母のひざの上

「父の出征前に稲美町の実家の前で撮った1枚です。私は赤ん坊だったので、何も覚えていません。父は旧制中学の教師をしていたそうです。出征後1年余りで、当時のビルマで戦死しました。そのとき、母のげたの鼻緒が切れた、と聞いています」

教師だった父



最後の里帰り

■昭和18年4月、朝来郡竹田町(現朝来市)
提供 朝来市、岡村伊都代さん(91)＝当時17歳

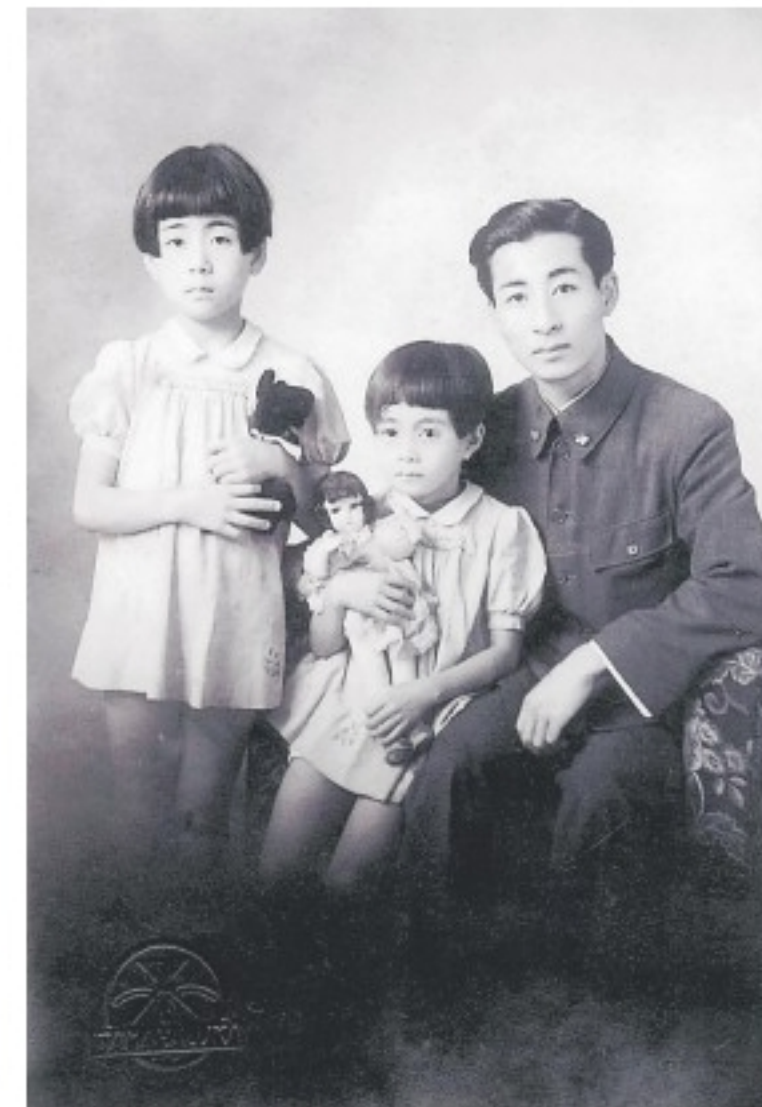
「兄がようやく里帰りしたというのに、私

と弟は学校へ駆り出され、会えませんでした。体が大きく、よく学ぶ兄でした。戦死公報によると、少尉だった兄は翌19年12月24日、部下とともに、フィリピンの空に散りました。三回忌をすませると、母も亡くなりました。あの戦争は何だったのでしょうか」

年の離れた19歳の兄

■昭和17年7月、宝塚市
提供 姫路市、水谷晃子さん(83)＝当時6歳、中央

「兄は年の離れた私と姉をとてかわいがってくれました。宝塚歌劇が大好きだったので、出し物が変わる度に連れて行ってくれました。写真は出征する数日前に、兄の希望で宝塚大劇場の中の写真館で撮ったものです。当時まだ19歳だった兄は戦後、かなりの年月を経て帰ってきました」



出征する父を囲んで

■昭和13年6月、佐用郡大広村(現佐用町)
提供 たつの市、春江進さん(87)＝当時7歳、前列左端
「昭和13年、出征する父を囲み、家族で撮った写真です。明治生まれの父は昭和3年に近衛歩兵となり、除隊後は農業をしながら在郷軍人として活動していました。このときの召集で中国に渡り、分隊長として従軍していました。翌14年6月に河北省で戦死しました。34歳でした」



■昭和17年8月、赤穂郡矢野村(現相生市)

提供 相生市、福田麗子さん(85)＝当時8歳、前列中央(帽子姿の女の子)

「叔父が出征することになり、母の実家に親類が集まりました。中央でタキシードを着ているのが叔父で、隣に母が写っています。私は兄と一緒に、ハイカラな帽子と靴のペアルックで納まっています。当時はまだ疎開前で、私たちは大阪に住んでいました」

カラー写真も歓迎します

「昭和のアルバム」は毎月第2水曜日に掲載します。戦前戦後の古い写真

はもちろん、昭和30～60年代のカラー写真も歓迎します。

応募の条件は、①昭和期に撮り、時代の雰囲気や伝わる②投稿者が写っている③有名人と一緒に撮った場合は、本人か

遺族の了解を得る④できれば兵庫県内で撮影一とします。

撮影時期、場所、投稿者の撮影当時の年齢、メッセージを添えて、郵便か電子メールでお送りください。

郵送の場合、写真は複写をした上でお返しします。2週間ほどかかりますので、ご了承ください。採用の方には図書カードを進呈します。

住所、名前、年齢(生年月日)、電

話番号を明記し、〒650-8571(住所不要)神戸新聞・編集委員会「昭和のアルバム係」へ。メールshowa@kob-e-np.co.jp